

夕刊 磐城時報

行發日八廿
印刷所 磐城時報社
印刷部 磐城時報社
行所 磐城時報社
一、部金貳圓一ヶ月金卅圓
廣告料一ヶ月金卅圓五錢
日刊(日曜祝祭日)翌日休刊

忘るな一週間の試練

市民の輝く努力!

成績は概して良好

第二次防空訓練終る

本年度第二次防空訓練は防護團と消防組、家庭防空隊の、等々の空を設る、自衛的立場から市民に奮って真剣に施行、極めて良好な成績を収めて、基本訓練、及綜合訓練の二期に分けた前後一週間に亘る演習は無事終了、平市防護團の講評は別記の如く今二十八日午後一時から平市第一小學校庭に舉行、参加者は防護團員、指導員、家庭防空隊(隊長以上)等八百余名の多數に上り、前後一週間の訓練参加に拘はらず河れも元氣一ぱいで少しの疲労も見せず、熱心に青沼團長、四家副團長の講評を聴取した

平市防護團長

青沼市長挨拶
二十一日より實施された今次防空訓練に際し、献身的努力と一般市民の熱誠なる協力に依つて概して良好なる成績を収めたことは私の最も欣快とする處で、各位が克く本訓練の實施に當り、滅私奉公の精神を發揮し奮闘した御努力に對し、深甚なる感謝の意を表すものであります、今回の訓練は主として焼夷彈攻撃に對する防空機關の活動を演練し、

常に斯くあれ

本田平警察署長談

警察署長の講評は三十日發表する縣當局の講評を終へ次第管內全般に亘つて行ふ豫定であるが、二十八日の演習を終へ本田署長は語る

平市は重要地區として今までの演習に於ても監視監視部より成績良好の折紙をつけられたるが、今次の訓練は全市民的の熱意と研究的な態度に敬服に値する、とりわけ今次演習の根本を爲した防空隊の活動は隣保互助の美風を涵養すると同時に防犯の方面から見ても相當訓練に成つた、今後防空隊の防犯に對する心構へも斯くあり度、二十六日の綜合訓練に成つてから愈々演習も

中野齒科

平市中野(電五〇九)
院長 中野 惠次

演習の尊い犠牲

辻消防手狭心症で殉職

平市紺屋町二九番地平消防組總持ち辻金太郎氏(五五)は二十七日日夜、消防手として今次綜合訓練に参加、紺屋町元警察署前(門前番地七番附近)で西部消防隊の警備に勤務中、同夜九時四十分頃急に「氣持が悪い」といふが、靴をぬぐいとまもなく狭心症を起して玄關に倒れ、そのまま急死、關内組頭や醫師が既に命脈を断たれてゐた、急死の原因は消防組員として連日防務に當り、心身共に疲勞し、狭心症を起したものであつて、今次防空訓練の尊い犠牲である、本田署長は直ちに縣へ報告し、明日二十九日午後一時自宅出棺長崎町性源寺に於て追善法事を執行することになった

模範組員

殉職の辻消防手

別項、防空演習で殉職した辻金太郎氏は大工を本職とし、大正三年平消防手奉命以來、名譽ある平組の維持として滿二十五周年勤続、郡消防協會を授與されること二回、平組員中の模範組員で急逝を惜しまれてゐる

自作農維持資金

本縣の十三年度自作農維持資金貸付額は二十六日決定したが石城郡下の貸付額は左の通り

▲渡邊村	田中重喜丸、〇〇
▲江尻直治	一、六〇〇圓

市町村特別補給金決定

本縣の市町村特別補給金決定は二十六日決定發表された、平市及石城郡下町村への割當は左の如し、尙これが使途協議會は來月一日平市で開催される

▲平市	三、五七二圓
▲渡邊	三、八四四圓
▲植田町	二、九〇〇圓
▲勿來	二、〇五一圓
▲飯野村	六、八一四圓
▲夏井村	八、二九九圓
▲高久村	二、四四四圓
▲江名町	一、二九二圓
▲鹿野村	一、六二二圓
▲小名濱	二、三五二圓
▲好間村	七、四八四圓
▲倉町	一、九三三圓

平製水總會

今期利益一萬圓

平製水會社の第十九回定期株主總會は二十七日午前十時から同南米進出に對する大きな足場とするとの風潮を是正する契機たるしむべく星氏は合衆國を経由してベルギーに赴き大統領、外相、勸業相を始め自ら當局と懇談打合せを遂げ、自ら所有地を踏破して氣候良好、地に味肥沃な實際を見て開拓の成案を得、その準備を終へて歸朝したものである

梨出荷優良者

石城郡梨組合聯合會主催梨出荷成績品評會受賞者は左の如く決定、既報の通り二十九日午後一時平市團體事務所にて授與式を行ふ

▲優等	好間村上好間鈴木重行(出荷箱數七三五、平均價格二圓三九錢)
▲一等	好間村金成義雄、同金成辰吉、同深山清治、同木田修枝、同野田勇次郎、同野田修治、同村野田太郎、同吉田謙治、同金成金作、同田中末松、同賀庄次郎、同高木武次、同山野遊車五郎、同橋本辰治、同白石徳長、大野村鈴木廣治
▲三等	吉田夏次郎外三十名

天候豫報

今晩は西の風涼爽、明日は西の風驟雨模様

見習工募集

加納活版所

強氣電力應用 神效痛經

戰地通信

武運に恵まれず 手柄たてぬが残念

石川 幸一 君

前署、二週開計り続いた好天も、昨日より雨降りとなり今日で三日目です。思ひ出せば去年の今頃は雨降りでした。丁度入營して二日目、初めて味方軍隊生

活三日で五日には原隊を出発して征途に就いたのです。夕方拜啓、寒冷の候貴分會員各位に

の〇〇用列車で軍窓を閉ざし黙は益々御健祥にて御奮闘之段奉

々として懐かしい杜の都を後に賀候、陳者小生應召以来既に三

しました。途程沿線の歡呼の聲々月余経過此の間恙なく軍務に

にどうして癒えないでゐられませ居り候へば他事ながら御休

せう、あの時のホームにあつた心被下度候。先般は愚々御叮嚀

皆様の御顔が今でもつきり目に慰問状を被下有難く拜讀仕り

に見る様です。本當に感慨無量分會一騎當千の士に依り見事

量です。清野様、皆御健在で武術大會に於て第一位を占め名

すか、小生こと御蔭様で變りな譽ある優勝旗を獲得され候由

く御務下され、未だ〇〇もあ感戴の外御申上げ候と共

りませぬが何時又〇〇するもの。の統後の守り確く後願の憂なく

やら準備だけは完了して居皇國の爲め一死奉公の誠を盡し

ります。特殊勤務の關係と武運御恩の萬分の一に報ゆる覺悟に

も出来ませんでしたが今度ほど小生と共に警中同窓生六名、東

うかして目醒まし働きて日北健兒の意氣高く團結も堅く明

皆様の御期待に副ひ度いと思つ日の戦陣に備へるべく演練致し

居り候、先は御禮芳々各位の御賞分會各位に宜敷お願申上候
健康をお祈り申上げ候
(大知實氏宛)

一日一言

野澤 武藏

今次防空訓練演習は防護團消防組、家庭防空群と三隊一致し、働き得るものは男女を問はず總動員したことに特色があり、家庭防空群の結成とその行動訓練も又防空演習最初の試みで實戦を思はせる緊張した演習に終始、實績は前回に比較して著しく向上した

炭礦地帯を包含する平市は縣内でも最重要地点として訓練演習は熱心に指導され、全市民は各々自衛のため参加、二十一日の家庭防空群編成、同結成式、同防空群の空襲下非常時の基本的訓練、防護團の命令正系傳達訓練、同交通班の交通整理、待避訓練等進行した。

燈火管制の各戸検査は綜合訓練演習第一日目の二十六日執行することが発表され、全市各戸共吾が家の無敵な管制を誇るべく、待機の姿勢で検査員の來訪を、今か？今か？と待ち構へてゐたが、同夜検査の廻らない家が随分あつたやうで、如何にも残念であつた。検査員の數には限度があつた、反対に戸數が多いから検査員の廻り切れなかつた点に同前を察し得ないが翌二十七日の登間は何等検査も行はず、ベトナム合格證を貼付して行つたのには一驚を喫した

然るに「模範管制」の看板が市内隨所に相見受けられたのは如何にも不思議千萬である。正確なる検査を執行して「この家は何か悪いから不合格だ、或は此の点が理想だから模範を挙げ、足る」と美点を欠点を挙げ、悪いものを指導することが訓練演習の目的とするところであつて、折角の検査に備へたのに見ないものに合格證を興へたのも不公平極まるものであるまいか、指導員並に其の衝に當る人々に一考を促し度が必要である

皇氣新年るはがき
慰問用新年るはがき
兵隊さん達のキツト喜ぶがましいエバキを湯山取揃へました、その他百人一首、トランプ、クリスマスカード等新品豊富、是非御來店願ひ上げます

平銅鐵機械商會

代表社員 井尻七三郎
本市銀治町九(電話五二二三番)

御買上は精々御安く納品致します
御拂下げ品は精々高價に買受けます

中古各種レール鐵管
礦山用機械・機具類
二大製鐵會社特約店
海軍工廠御用達

買賣仲介

ラヂオ

日本放送局指定
ラヂオ相談所
H K 型ラヂオ福島縣下配給所

富永ラヂオ店

電話四九六番

小株式店主 富永一朝
電話二七一番

新文具御案内

マルトモ書店入荷品
算盤より、もつと早く、もつと簡単で、もつと便利です。對數應用の早見的使用法は、本品はあらゆる方面に使用しますが特に工業、商業、銀行、保險、鐵道等の方に薦め致します

竹見式計算尺 四時、五時、六時、十時
定價(三)〇〇 (四)五〇 (五)〇〇

内科

レント
小兒科 ケン科

四倉町(電話三十番)

吉田醫院

醫學博士 吉田正

スッポン酒

滋強第一
肥やし
肥やし

スッポン酒

スッポン活血錠 三圓・五圓

店賣販下縣
局藥邊野山 目丁五・平

内臓外科

院長 安齋 徹
エックス光線
産婦人科 醫學士 黒澤 廣

安齋醫院

入院隨意
平市田町(電話四五七番)

産科

入院隨時
醫學博士
五十嵐雄二

平市新川町(電話三六九番)

油と味噌

鹽屋

平市古銀治町
電話(營業部専用)一〇番
(一般用)二七番
振替東京一九七五五番

開業廣告

齒科 一般の療診

齒槽膿漏科
口腔外科
補綴科
小兒齒科

診察時間
午前八時～午後九時
午後九時～九時迄

院醫科齒木鈴
男一木鈴
り通場車停市平
(前館界世)

平消防組

當組消防手辻金太郎殿今次防空訓練に協力勤務中突然狭心症を起し殉職仕候

追而葬送の儀は明十一月二十九日午後一時自宅出棺性源寺に於て准消防葬を以つて相替み申候に付此段謹告候也

昭和十三年十一月二十八日